

## Endodontic Microsurgery

～やるときはやる！だからこそ繊細かつ精密な Microsurgery～



鎌倉市開業・神奈川歯科大学大学院歯学研究科歯髓生物学講座  
三橋 晃

根管内から感染源を徹底的に除去するという極めて基本的な歯内療法概念を応用すれば現代の歯内療法では比較的高い成功率を獲得することができる。しかしながら、根管治療後にサイナストラクトが消失しない、炎症性の疼痛が消失しないなど、通常の根管治療に反応しない症例においては、根尖孔外での細菌感染の持続やバイオフィルムの形成、そして根尖孔部の人為的破壊などから根管治療の難易度が上がっていると考えられる。

そのような場合には感染源や炎症を根管内からマネジメントするには限界があり、外科的歯内療法の適応となろう。従来から肉眼で行っていた根尖切除術の成功率は6, 7割であると言われている。

一方、マイクロスコープを用いた Microsurgery で行う外科的歯内療法の成功率は確実に上昇し、9割を超えると報告されている。侵襲がないとは決していえない外科処置であるが患者の利益を最優先に考え、やらなくてはならない状況が目前にある場面では繊細かつ精密な Microsurgery を患者に提供すべきである。

今回は症例提示も含め Endodontic Microsurgery について講演したい。